

# 皆満寺通信

## 第9号【報恩講特集】

「なによりも迷惑なことは、多くの人が親鸞聖人を、ただありがたい雲の上の人だと思っていることです」  
三國蓮太郎

### 人間回復の道へ

原子力などに代表される、人知を至上とする生活から容易に引き返せない深い苦悩の時代であります。大災害に遭遇した私たちは、自らの身の事実として、「人を思いやる心」がこの私にどのように成り立つのか、生きるうえで「確かなもの」とは何かという課題に直面しております。

親鸞聖人が顕らかにしてくださった「如来よりたまりたる信心に生きる」ことこそ、個人に沈み込まない「方向のある生活」と「真のつながり」を成り立たせしめ、共に「人間回復の一道」を歩んで行けるのではないのでしょうか。

### 報恩講をお迎えします

今春、真宗本廟(東本願寺)で、宗祖親鸞聖人回750回御遠忌法要が厳かに執り行われました。「報恩講」も750回の節目に当たりますので、御正當報恩講と称して行われます。そこで今年は当寺としてもそれを承けて例年よりやや重く、ご門徒と寺が一体となって「報恩講」を執り行います。

私たち真宗門徒が宗祖と仰ぐ親鸞聖人が果たされたお仕事の大切さを讃え、文字どおり恩徳に感謝し報いていくのが報恩講です。一人ひとりが現実社会を生き、自らの生活を振り返り、その生活の中で聖人の本願念仏の教えを、かけがえのないものとして確かめる機縁となるものであります。

愚かで罪深く、迷いの世界に執着している私たちを「摂取不捨」(目覚めさせて救いとる)するために、仏さまの方から尊い願いがかけられています。

仏さまとの出遭いは、遠い過去からの積み重ねられたご縁の賜物であります。その願いかけと賜ったご縁に、私たちはどのように向き合い、お応えすれば

よいのでしょうか。

「恩」とは、有難み、恵み、慈しみ、もっと砕いて云えば、助けてもらったり、世話になったりすることなどを云います。その恩は、ほぼ一時的なもので、それに見合ったお礼をするのを、一般的に恩返しといえます。

如来や師主知識の「恩徳」は、私の「いのち」の在りように関わる「必ず救い取って捨てることはない」という私たちの想いを遙かに超えたご恩でありますから、単なる恩返しで済まされるものではありません。身を粉にしても、ほねを砕いても報謝すべし、というのは、私の心身の全てを捧げてご恩に報い、謝念を表すことであります。

煩悩の海に浮き沈んでいる私たちが念仏するものとなって、如来大悲の恩徳にめざめよという「よき人」の大切な教えを聞くことによって、「煩悩を具足しながら無上大涅槃にいたる」という無碍の一道に立ち、私の人生全体が、浄土真宗という仏道に生かされていく。このことこそが、ご恩報謝への道に他なりません。

「貴方は、本当に親鸞聖人の仰せをいただいていますか」という厳しい問いかけがなされています。形式ばかりの報恩講、「信心」を忘れた報恩講になっているのではないのでしょうか。

「さあ、今年こそは」と、この報恩講を改めてお勤めしたいものです。

### ご懇志のお願い

「報恩講」は全て、ご門徒お一人お一人のご懇念により、皆満寺同行の行事として運営されています。

ご門徒と寺とが一体となってお勤め致しますので、どうか、ご懇志をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

### 報恩講の諸準備へのご協力を

報恩講は、ご門徒と寺が一体となって、企画の段階から、準備、執行に至るまで力を合わせてお勤めいたします。9日より準備を始めます。お力添えいただけるご門徒のご参加をお待ちしています。

期日	日程	内容
11月9日	諸準備	寺内の諸準備中心。
11月10日	諸準備	立華、荘厳準備。清掃。
11月11日	諸準備	立華、荘厳。清掃。
11月12日	諸準備	清掃、総点検。

## お勤めの稽古をしましょう

報恩講大速夜のお勤めの稽古を次のように執り行います。ぜひ、同朋唱和の輪にお入り下さい。

日時 11月7日 午後4:00～(今期の最終回です)

内容 報恩講大速夜のお勤めの稽古

正信偈 真四句目下

念仏讃 淘五

和讃 五十六億七千万 次第6首 五遍反

回向 願以此功德

11月14日(月) 午前10時～「満日中」

登高座、「報恩講式」(註.8)「歎徳文」(註.9)

文類偈 草四句目下

念仏讃 淘五

和讃 三朝浄土の大師等 次第3首

回向 願以此功德

お文

「法話」 住田昭信 師

### 報恩講日程

期日 平成23年11月13日(日)～14(月)

時刻 両日とも、午前10時～と午後1時～

法話 善慶寺住職 住田 昭信 師

節談説教 善重寺副住職 大橋 侑司 師

《本年は「報恩講の夕べ」を取りやめ大速夜後に御伝鈔拜読と節談説教を執り行います》

11月13日(日) 午前10時～「初日中」法曹

登高座、「表白」(註.1)、

文類偈(註.2) 草四句目下

念仏讃 淘五

和讃 生死の苦海ほとりなし 次第4首

回向 願以此功德

お文

「法話」(註.3) 住田昭信 師

正午 《お 齋》(註.4) 引き続き午後もお参り下さい

午後1時～「大速夜」《同朋唱和》

正信偈 真四句目下

念仏讃 淘五

和讃 五十六億七千万 次第6首 五遍反

回向 願以此功德

「御俗姓」(註.5)の拝読。

「法話」 住田昭信 師

午後3時— 暫く休憩 —

午後3時半 「御伝鈔」(註.6)

「節談説教」(註.7) 大橋侑司 師

午後4時半 終了

正午 《お 齋》(註.4) 引き続き午後もお参り下さい

午後1時～「お 浚い」《同朋唱和》

正信偈 草四句目下

念仏讃 淘三

和讃 弥陀成仏のこのかたは 次第6首

回向 願以此功德

お文

「法話」 一法話の総まとめ—住田昭信 師

午後3時 終了

※お勤めの初めには、「真宗宗歌」、終わりには「恩徳讃」を唱和します。

### 「註」

- 1 報恩講執行への願いを表明したもの。
- 2 浄土文類聚鈔の中の「正信念仏偈」。所謂「正信偈」とやや異なる。※浄土文類聚鈔とは、浄土真宗の根本思想を書き記した論書であり、正信偈は主著である『教行信証』の行巻巻末に謳われた漢詩である。
- 3 「法話」は、仏法を聞いて知識を増やすことでなく、仏法に私の在りようを聞いていくことが求められる。
- 4 以前は、門徒の方々が当番制で、朝早くから調理し、参詣の方へ供してきましたが、現在は、諸事情により割子弁当で賄っています。
- 5 蓮如上人の作。聖人の俗姓及び行化の跡を述べ、報恩講における門徒の心得を説く。
- 6 覚如の「親鸞伝絵」の詞書だけを別出したもの。絵の部分は、掛け軸にして南余間に奉懸。
- 7 絶妙な節回しで聴衆を魅了する法話
- 8 覚如作。聖人の徳を真宗興業・本願相応・滅後利益の三段にわけて称賛したもの。
- 9 存覚作。聖人の行実を示し、遺徳を讃嘆したもの。

## 貴方は宗祖親鸞聖人のお客さまです

かつて赤尾の道宗さんが「一日のたしなみには、朝勤めに欠かさじと、たしなめ。一月のたしなみには、ちかきところ、御開山様の御座候ところへまいるべしと、たしなむべし。一年のたしなみには、御本寺へまいるべしと、たしなむべし。」と申されました。

年に一度の報恩講に、聖人の御真影のもとに会いより集う私たちを、蓮如上人は、「開山聖人の、一大事の御客人と申すは、御門徒衆のことなり」と仰せられました。ご参詣の皆さまを大切な客人として「ようこそ、ようこそ」とお迎え下さっていらっしゃいます。座って「棚ぼた」を待つのでなく、身を運び、聖人のみ教えに接するのが真宗門徒としての大切なたしなみであります。

## 「報恩講」をご縁に生きざまを問う

人間は自分本位にものごとを考え、行動する厄介な存在で、視野も狭く、独善的な自信家でもあり、本当のものが見えていない、まさに迷いの真只中に身を置いている者に他なりません。

宗祖は人間の迷いの根本原因を無明の煩惱に見出し、具体的には、自力への偏った思いこみによるものと見ておられます。聖人が「自力というのは、わがみをたのみ、わがころをたのむ、わがちからをはげみ、わがさまさまの善根をたのむひとなり」と語られておりますように、自力の人は、我が身、我が心を頼りにし、やり遂げたと思い込む人で、まさに迷いの究極の姿に他なりません。

親鸞さまは、「回心というのは、自力の心をひるがえし、捨つるをいうなり」と云われます。この回心とは、阿弥陀さまの智慧に促されて起こる、私たちの生きざまの転換であります。

## 幼少年時代の報恩講の思い出 —前住職—

当時の「報恩講」は、寒の真っ最中の1月13日から15日の二昼夜に亘って勤まりました。氷がびっしりはり、度々雪もかなり積もって、坂でスキーのまね事もしました。暖冬気味の昨今とは異なってご門徒の方々は、厳しい寒さの中、襟巻きをし、綿入れを羽織って、赤々とした炭火が山のような大火鉢数個を囲んで僅かな暖をとりながら、堂内に充ち満ちておられました。その頃は、御朝事、日中、逮夜、御初夜と早朝から夜まで人がひっきりなしに出入りし、賑やかな雰囲気にもまれ、本堂では、ご門徒の方々の折に触れての「ナンマンガブ」というお念仏の声がいっぱい溢れておりました。

その準備は大変なもので、まずお華束づくり。何日か餅をつき、平らに伸ばし、小餅にくり抜いて串に刺し、それを組み立て、食紅を塗り出来上がるといった手の込んだ作業です。また、お華立ては、まず真になる太い松の幹に、枝振りを考えながら松の小枝を差し立て立華の中心を創りあげ、そこへ季節の花や木、草花を添えます。これにも二、三日、懸かったようです。

この仕事を側で眺めているのも楽しかったのですが、最大の楽しみは、「お斎」に尽き、大きなお椀にはみ出しそうな大根と油揚げ、椎茸や里芋などの煮物、ひじきの白和え、具の沢山入った味噌汁、てんこもりのご飯などなど、すごく美味しかったことを今でも鮮やかに覚え、懐かしさに耐えず、今一度、そんな報恩講に遇いたいものです。

## 近くの寺院の報恩講

寺にはそれぞれ、独自の雰囲気があります。今年は節目に当たる報恩講です。お詣りなさってその雰囲気に触れてみては如何でしょうか？

光蓮寺	(半田市 岩滑中町)	11月10日～11日
清勝寺	(武豊町 富貴)	11月16日
無量壽寺	(半田市 成岩本町)	11月18日～20日
順正寺	(半田市 堀崎町)	12月1日～2日
浄土寺	(半田市 栄町)	12月3日～4日
雲觀寺	(半田市 中村町)	12月6日～7日
雲澤寺	(半田市 協和町)	12月11日～12日

## 平成24年度 主な法要と行事

法要・行事	月 日・時刻
修正会	1月1日 a.m.10:00～
春の彼岸会	3月20日 a.m.10:00～
花祭り・誕生兒初詣り	4月21日 a.m.10:00～
総永代経	6月23日 a.m.10:00～
盂蘭盆会	8月13日～15日 a.m.10:00～
秋の彼岸会	9月22日 a.m.10:00～
納骨総経	10月20日 a.m.10:00～
報恩講	11月13日～14日 (例年通り)
除夜の鐘	12月31日 p.m.11:40～
お勤めの稽古	随時 (改めてご案内)
真宗講座(仮称)	企画中 (改めてご案内)

その他、本廟奉仕団や本廟・祖廟収骨バスなども考慮しております。

## 平成24年度 年忌法要表

年 忌 法 要	還 浄(死去)された年
1 周 忌	平成 23 年
3 回 忌	平成 22 年
7 回 忌	平成 18 年
13 回 忌	平成 12 年
17 回 忌	平成 8 年
(23 回 忌)	平成 2 年
25 回 忌	昭和 63 年
(27 回 忌)	昭和 61 年
33 回 忌	昭和 55 年
(37 回 忌)	昭和 51 年
50 回 忌	昭和 38 年

※( )は慣例により行う場合があります

年忌法要は、**遺された私たちのための大切なお勤め**です。「年忌法要」とは、お経を読んでもらい、亡き方を慰めたり、魂を鎮めるたりすることでも、福を招き、災いを除こうとするのでもありません。先祖を敬うと言いながら、どこかにそらばん勘定がちらちらしてはいませんか。

亡くなった方は、全生涯を通して、私に目覚めよ、気づけよという促しを、今なお続けていて下さいます。諸仏さまへのお礼報謝のお仏事ですから、**何が人間を本当に目覚めさせるのか、何が人間をいよいよ眠らせていくものか、その水際を見据えていく生活**をする他に報謝の営みはありません。

※土、日曜日には多くのご予約を頂くのでお早めにご連絡下さい。

また、HPのWEB忌日表もご活用下さい。(ご命日を入力していただくと年忌年をご確認いただけます)

## 東日本大震災救援金について

今日までに多額の救援金をお寄せいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。当寺よりの救援金は既に本山を経由して被災地へと届けられております。通信の発行時期等により、ご報告が遅くなりましたが、ここに御礼旁々ご報告申し上げます。誠にありがとうございました。なお、被災地の状況を思えば、継続した支援は不可欠です。宗派としても継続した支援体制をとっているため、当寺としても支援を継続してまいりたいと思っておりますので、ご支援の程よろしくお願いいたします。

皆満寺 705,686 円  
全 国 457,500,055 円 (23.8.25 現在)

## 「福島と名古屋をむすぶ子ども会 in 東別院」

大震災、巨大な津波、加えて原発事故。福島の方々には放射能と放射能汚染によって苦難を余儀なくされています。この災いに巻き込まれた子ども達の問題は深刻です。そこで、現地のグループと連携を取り、福島の子供達(親子)を1週間招いて、放射能を気にせず安心して屋外で走り回り、笑顔と子どもらしさを取り戻して貰おうという試みが冬休みの12月23日から29日まで行われます。

第2組としても支援しますので、ご門徒の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

## 除夜の鐘

「正覚の大音は、響き十方に流れる」—歎佛偈—

百八の煩惱を消すためではなく、我が身に満ち溢れた煩惱を自覚するための鐘撞きではないでしょうか。自己満足を追い求めるのではなく、「今」を引き受けて生きていくことが大切なのです。

鐘の音は、「どうか、目覚めた生き方をしてくださいね」という仏さまの尊い願いの声なのであります。ましよう。

## 後 書 き

人間や自然のつながりを根こそぎ破壊尽くした巨大な地震と津波、集中豪雨による大水害、今もなお帰るべき故郷を奪い続ける原発の重大事故。唾然として立ち尽くすばかりですが、共に立ち上がりましょう。

宗祖は、人生の深い悲しみを受け止めて、「これは生死無常という人生のことわり(道理)であると、かねてより如来から教えられ、お育て頂いてまいりました」と押しえられ、こういう時にこそ、物事の「ことわり」(道理)に目覚めて生きることが大切であると勧められております。

自然の猛威の前には為すべき術もありませんが、自然の大きな恵みに生かされていることも、また尊い事実であります。

## 「皆満寺通信」

第9号 —報恩講特集—

2011年10月20日発行

知多郡武豊町守下門137

真宗大谷派 皆満寺

TEL 0569-72-0435 FAX 0569-72-0740

URL <http://www.kaimanji.or.jp>

Mail [postmaster@kaimanji.or.jp](mailto:postmaster@kaimanji.or.jp)